

これまでの検討及び取り組みについて

1. 幹線系統の運行計画とりまとめについて

現在「窪川～大正線」「大正～十和線」として運行している幹線系統について、JR予土線と共に、旧町村を結ぶ「幹線」と位置づけ、互いに補完性を持った公共交通網とするため、以下の取り組みを検討している。

- ・「窪川～十和」間を直通化し、鉄道との接続強化を図る。また、経路を見直し幹線の速達化を図る。そのために野地・家地川・弘瀬の各地区、吾川・浦越の各地区、河内地区との調整を進めてきた。

協議を行った地区	協議の結果
野地・家地川・弘瀬	住民組織が主体となる新しい移動手段（ライドシェア）を導入することになった。
吾川・浦越	大正地域コミュニティバスを導入する方針となった。
河内	十川地域コミュニティバスを導入する方針となった。 河内公園付近のバス停新設を検討。

- ・鉄道及びバスの相互利用を高めるため、幹線バス運賃を鉄道同等に設定する。
- ・生活交通のみならず、観光の移動手段としての役割を十分に發揮させるため、令和8年10月（予定）より、幹線バスの江川崎駅への延長及び鉄道乗車類により幹線バスを利用できる「モーダルミックス」の導入により、予土線高知県側の交通網との接続を強化する実証実験を行う。そのために四万十市との調整に取り組んでいる。

2. 野地・家地川・弘瀬地区のライドシェア導入検討について

- ・（4月）運行の担い手として集落活動センターけやきとの協議を行った。
- ・（10月）運行計画案をもとに集落活動センターにて、住民を対象として説明会を行った。

3. 既存バス路線の再編について

- ・大正地域コミュニティバスの中津川線、下津井線について、利用者の少ない便の運行休止を行った。
- ・十和地域コミュニティバス及び路線バス（四万十交通）について、十川橋架け替え工事に伴う運行経路及び運行ダイヤの変更、十川橋バス停の移設などを行った。
- ・以前より利用者の少なかった影野線について、昨年度末より順次沿線住民への説明会を開催し、令和7年10月に運行を休止した。